

月刊 新翔タイムズ

第80号 新翔タイムズ 編集室 発行・熊野新聞社



郷土への貢献を志に 第8回卒業証書授与式



新翔高等学校では3月2日(月)に第8回卒業証書授与式が行われ、男子71人、女子80人、計151人が卒業証書を手にした。永石校長は祝辞の中で、出会いを大切にすること、社会人としての責任と自覚をもつこと、郷土へ貢献できる人間になることという三つのことを卒業生に伝え、最後に「『創造』『愛郷』『未来』の校訓のもと、地域に根ざした教育を推進してきた本校で学んだ皆さんの中から地域のさまざまな課題を解決していく斬新な発想と確かな技能を持つ人、また地域のために貢献しようとする志を持つ人が育つことを期待します」と述べた。

また、在校生代表・生徒会長濱津津希君は送辞の中で「先輩方は常に私たちの目標であり、心の支えでもありました。これからは、先輩方が築きあげてくれた伝統を受け継ぎ、仲間と協力しながらこの新翔高校をますます誇れる学校にしていくことを誓います」といふ決意を力強く述べた。その後、卒業生代表・瀧谷澤花さんが答辞の中で「私はクラブ活動を通していろいろなことを学びました。思いや



り、支え合うこと、継続することの大切さ、そして人は決して一人ではないということ。私たちがとってクラブ活動は、喜び・悲しみ・感動が詰まった、かけがえない宝物でした」と3年間のクラブ活動への思いを述べ、最後に「これまで私たちに支え、励まして、助けてくださったすべての人たちにもう一度感謝の言葉を述べたいと思います。本心からありがとうございます」と締めくくった。式終了後、思いのすたがらげられ、卒業生はそれぞれ思いを胸に式場をあとにした。



実施日時知らせず

今年度4月24日に実施した防災訓練に引き続き、2回目の訓練を3月5日(木)に実施した。今回の訓練は、「地震はいつどこで起こるか分からない」ということから実施日時を知らせず、また、前回の反省から避難時の課題として、「しゃべらない」ということをあげ、学校の避難場所に速やかに移動することを目的に実施した。さらに、教職員が生徒

第2回防災避難訓練

に對し、正しい避難行動がとれるよう訓練前に防災に関する学習会を行った。4限目の授業中、午前11時50分に緊急地震速報が流れた。速報が流れると、生徒達は身の安全を確保する行動を、教員は出口確保をした後、身の安全確保を行った。放送終了(揺れが収まった後)、避難場所である校舎内のプール周辺に移動を開始した。

集合場所には、生徒や教職員の安全確認も含め、8分で避難が完了した。その後、教頭先生から「避難場所までの移動や集合・点呼を早くすること、次回はさらに2分の時間短縮を目指しましょう」と避難状況の講評があり、訓練を終了した。

アンケート結果から、「今までの中で一番速やかに行動できた」といった感想がある一方で、「ゆっくり歩いている人が多かった」といった意見、教職員からは「ダラダラした行動が見られた」「シューズの踵を踏んでいた」といった意見もあり、全員が素早く行動するための問題点が残った。

就職、進学準備早めに 1・2年対象に進路説明会



3月9日(月)に1・2学年生徒全員を対象とした進路説明会が実施された。生徒はあらかじめ希望していた分野にそれぞれ分かれて受講した。それぞれの分野には大学や専門学校などの先生が講師となり、1年生は20会場、2年生は23会場に分かれ、進路に関する学習を行った。

1年生の就職の分野では「進路の意識や」正社員とフリーターの違い」をテーマにした寸劇を見学した。また、2年生の就職の分野では「面接の成功例と失敗例」に関する寸劇を見たり、あいさつの仕方学習した。また進

教育の改善・充実に意見聞く 第2回学校評議員会開催



2月18日(水)第2回学校評議員会を開催した。この会の目的は、学校運営などについて学校の有識者から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資することにも地域や社会に開かれた学校づくりを一層推進し、学校が家庭や地域と連携・協力しながら特色ある教育活動を展開することにある。

5限目の授業参観を行った後、本年度の進路状況・生徒指導状況・クラブ活動報告を行い、意見交換を行った。出席者から「クラブの活躍が学校のイメージをアップするので頑張ってください」「就職後、何かあったときに粘り強くやってくれるのが大切。そんな生きる力を育ててほしい」「スマホは使い方を誤れば危険なものだということを指導してほしい」などさまざまな意見をいただいた。永石校長は「新翔高校について多くの意見をいただき、今後

の教育活動に活かしていきたい」と語った。新翔高校の学校評議員は6人。氏名は次の通り。順不同(有)リフレわかやま 児島隆也 (新宮信用金庫徐福支店) 瀬古 正 西哉素史 (香梅堂) 濱口太史 (紀南ビジネスマシン) 川合啓介 (株川合組) 前田道春 (佐野区役員)



建設技術系列の実習棟完成

このほど建設技術系列実習棟(昨年11月より着工、木造平屋建て、延べ床面積約100平方メートル)が完成した。授業では強度試験、コンクリートや鉄筋などの強度を測定することが出来る「万能試験機」を行う予定である。

備えており、新年度より建設技術系列の授業(施工演習)他)が行われる。授業では強度試験、コンクリート供試体の製作、「シュミットハンマー」による非破壊試験などを行う予定である。

学さまざまな分野では「看護の仕事は大変だがやりがいがあると聞いて興味を湧いた」「公務員などについて詳しいことを教えた」など、先生は「進路を考えていただいていたために、なにかの感想を述べた」。